

# Glocal Healthcare



## 企業概要

会社名	Glocal Healthcare Systems
設立	2010
事業分野	ヘルスケア
本社	コルカタ (インド)
社員数	501-1000



## 事例のポイント

医療分野における社会的包摂の実現は、途上国の低所得地域において深刻な課題となっている。

低コストかつ高品質の医療サービスを農村部にも届けるために、対象とする疾病の絞り込み、ICT と物理空間の融合 (医師不在のデジタル診療所)、オンライン相談などの工夫を組み合わせ、広範囲をカバーすることが可能な医療サービスの開発を進めている事例である。

## 企業プロフィール

同社は 2010 年に、医師であるサバハット・アジム博士によって設立された。インド国内において医療サービスを提供しているが、その特徴は「42 の疾病」に特化していることにある。これら 42 の疾病はインド全体の総患者数の 95% を占めており、これらに集中することで、医療の効率と品質を高め、これまで十分な医療サービスが提供されていなかった地域にも、医療へのアクセスを提供することを可能にしている。

12 の病院、250 を超えるデジタル診療所を運営するとともに、離村の住民が医療にアクセスするための遠隔診療サービスのインフラを、ハード面およびソフト面で開発・展開している。

## 背景にある社会課題

インドの農村部では医療インフラが非常に脆弱であり、病気の患者は、最寄りの医療サービスを受けるために長距離を移動することが多い。医療サービスの質にも大きなばらつきがあり、伝統的な祈禱師へ依存している地域や、十分な教育歴のない未熟な医師などに頼らざるを得ない地域もある。

インドでは、医師 1 人あたり、人口 1,445 人を診ているが、これは「医師 1 人あたり人口 1,000 人」を目安とする WHO の基準を大きく超過している。

さらにこうした医療提供側の大半 (診療所の 75%、病院の 60%、医師の 80%) は、インド全体の人口の約 2 割が暮らすに過ぎない都市部に偏在しており、結果として、人口の 8 割が住む農村部は、大きく取り残されている。

## ビジネスモデルと製品の特徴

同社は、従来の医療サービスが対象としてきた都市部や富裕層ではなく、農村部や、都市のなかでも比較的所得の低い地域を対象として事業を展開している。

そのためには、経験豊かな医師を全土で確保することが十分にはできない前提を取らざるを得ないため、対象とする疾病を絞り込むとともに、ICT 技術を活用することで、医療品質の向上とコストの低下を両立させ、低所得者層が良質な医療にアクセスできるようになることを目指している。

具体的には、以下のようなサービスが展開されている。

## 1) 病院

42の疾病に集中するというコンセプトを明確にし、必要最小限の設備で最大の効果をあげることを目指した、効率的な病院パッケージを開発した。設備の配置を最適化し、余剰スペースをなくし、ベッドあたりの資本コストを大幅に削減した。このため従来型の総合病院が進出できない低所得者層の居住地にも病院を作ることが可能になった。

診療プロセスにおいても、経験豊かな医師を十分に雇用することが難しい実情を踏まえ、同社はICTを活用した「プロトコル主導モデル」を採用しており、診断から管理までの全てのプロセスに標準手順が定められ、質のばらつきの出にくい環境を実現している。

## 2) デジタル診療所

病院が進出しにくい離村などにおいては、サテライト的な役割を果たす「デジタル診療所」を展開している。

デジタル診療所は、およそ6平方メートル程度の小さなブースであり、基本的な検査機材（デジタル聴診器、喉頭鏡、胎児ドップラーなど）と通信システムを備えて、看護師が勤務している。

患者はブースを訪ねることで、看護師の検査を受け、遠隔地にいる医師の診察を受けることができる。同社はブースの設計、設置および、医師に対する遠隔診療システムの提供を行なっている。

## 3) オンライン相談

さらにこれらを必要とするかが判然としない軽症の患者に対しては、モバイルアプリケーションを通じた遠隔医療サービスが提供されている。医師や専門家とオンラインで24時間、ビデオ相談を行うことができるサービスであり、医学、心理学、ヘルスケア、緊急事態などに関わる専門家が配置されている。

## SDG ビジネスへのアプローチ

### ① 基本疾患への「選択と集中」

同社の病院では、取り残されがちな農村部および都市部の中でも郊外の地域に展開するため、安い資本コストで最大の成果を出せるようにパッケージ化されている。

その根幹が42の疾病に集中するという決断であり、これにより従来は病院が成り立ちにくいと考えられていた地域にも病院を作ることができるようになった。

### ② ICT 技術を用いた遠隔診療の裾野の拡大

病院が単体では成り立ちにくい地域に対しては、ICT技術を活用し、デジタル診療所（物理的なブースを伴う）及びモバイルアプリ（スマートフォンからのオンライン接続）を通じた医療サービスの提供を行っている。

特にデジタル診療所は、看護師の支援により、物理的な検査を行うことでデータを取得することができる場として設計されており、遠隔医療における診断精度の向上という課題に対する一つの回答となっている。

## SDGs へのインパクト

- インド内外に12の総合病院、250を超えるデジタル診療所および広範な遠隔診療ネットワークを運営している。
- これらはいずれも信頼できる医療サービスへのアクセスが困難だった地域における展開である。

## 国際機関・ドナーとの連携

- 主要な国際機関との協業経験はないが、インドにおいては各州政府との連携を行い、インド全土へのデジタル診療所の設置を進めている。
- 2021年にはナミビアとウズベキスタンで現地政府との協定に署名し、これらの国々において同社のサービスを展開する計画となっている。